

平成 24 年度 地域医療連携事業に係るアンケート結果（概要）

1 対 象

神奈川県内の医療機関のうち、平成 23 年度に当センターへの紹介実績が 2 件以上あった医療機関。病院については紹介実績が多かった診療科を対象。

（1 施設 最大 3 科）

病 院 149 箇所（74 施設、149 診療科）
 診療所 628 箇所
 合 計 777 箇所

2 期 間

平成 24 年 11 月 13 日から平成 24 年 12 月 21 日

3 回答があった医療機関

（1）病院、診療所の別

〈診療所内訳〉

	病 院	診療所	有 床	無 床	不 明
回 答 数	70	291	23	240	28
施設の割合	19.4%	80.6%	7.9%	82.4%	9.6%
回 答 率	46.9%	46.3%			

回収率 46.5%（361 箇所：病院 70 箇所／診療所 291 箇所）

（参考）平成 19 年度 570 機関（病院 59、診療所 511）

（1）県内の小児科を標榜し、小児の病床がある医療機関

（2）登録医療機関

（3）南部医療圏・戸塚区内の診療所（小児科、内科）

（4）地域医療支援事業運営委員会の委員の病院

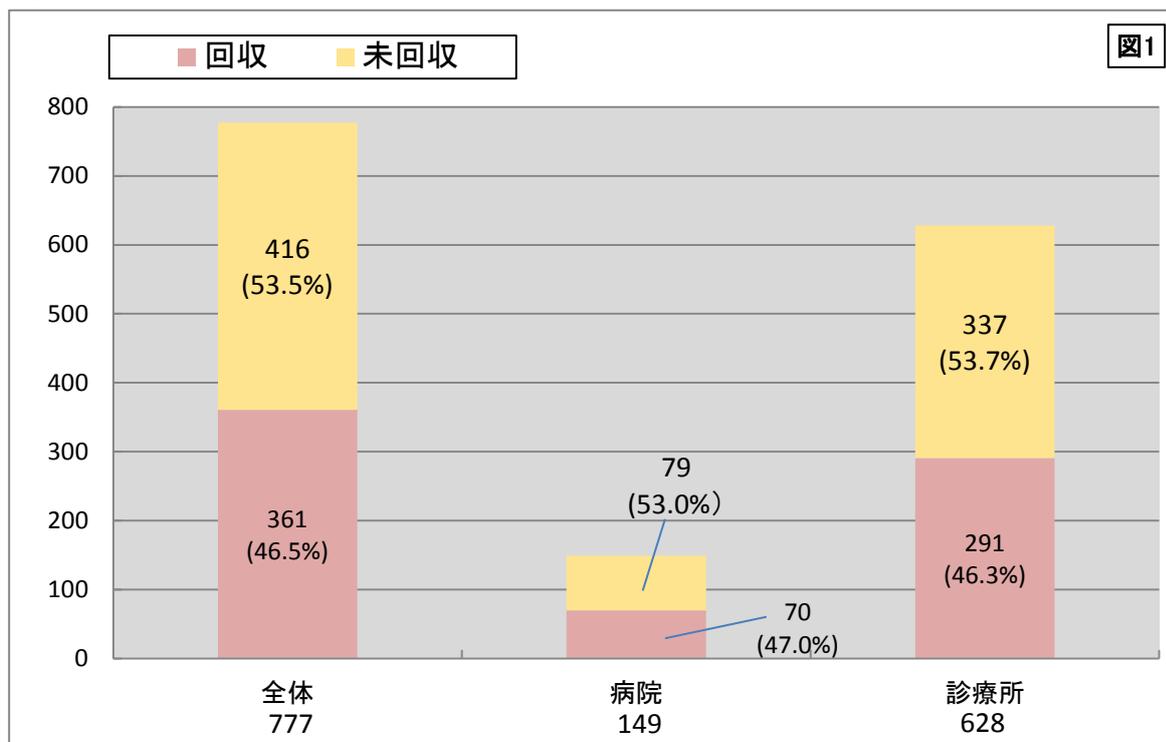
回収率 38.4% 219 箇所（病院 35 箇所、診療所 184 箇所）

（2）診療科の内訳（複数回答）

	小児科	内科	皮膚科	眼科	整形外科	耳鼻科	外科	精神科	その他
病 院	42	14	14	12	19	11	14	6	18
診療所	132	61	43	42	26	18	7	11	50
合 計	174	75	57	54	45	29	21	17	68
割 合	32.2%	13.9%	10.5%	10.0%	8.3%	5.4%	3.9%	3.1%	12.6%

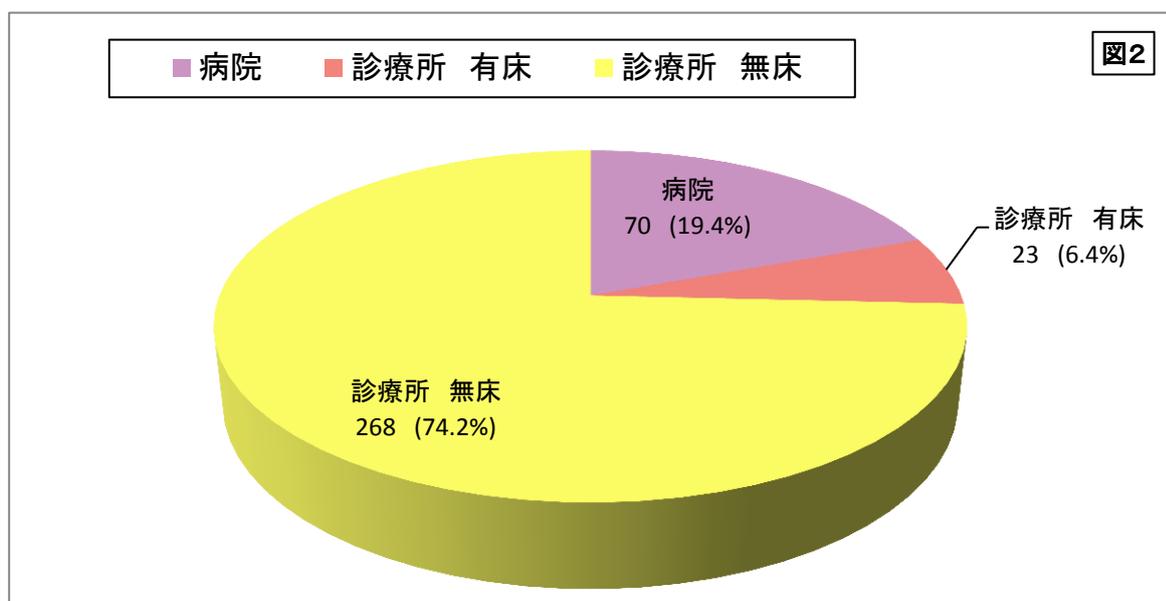
※その他は産婦人科、泌尿器科、リハビリテーション科等

調査票回収数(率)

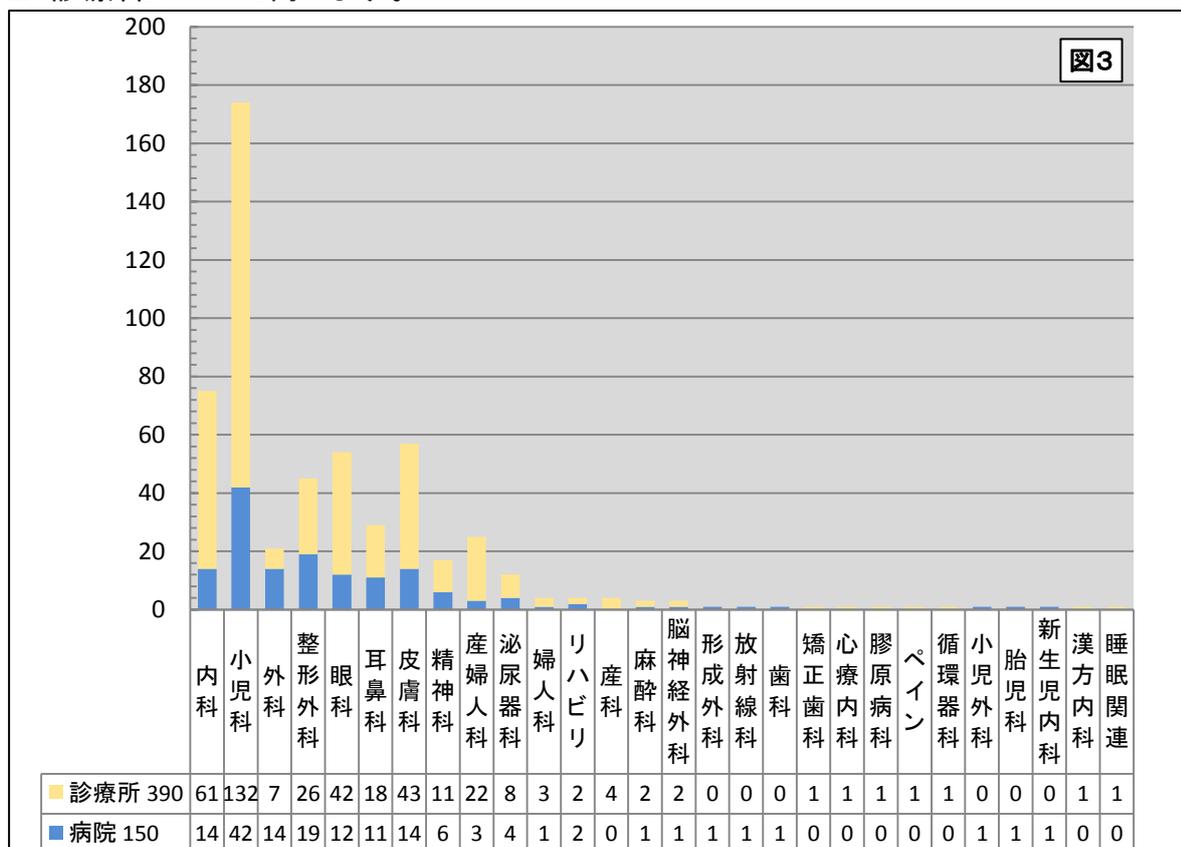


アンケートの集計結果

1. 貴院は病院でしょうか。診療所でしょうか。

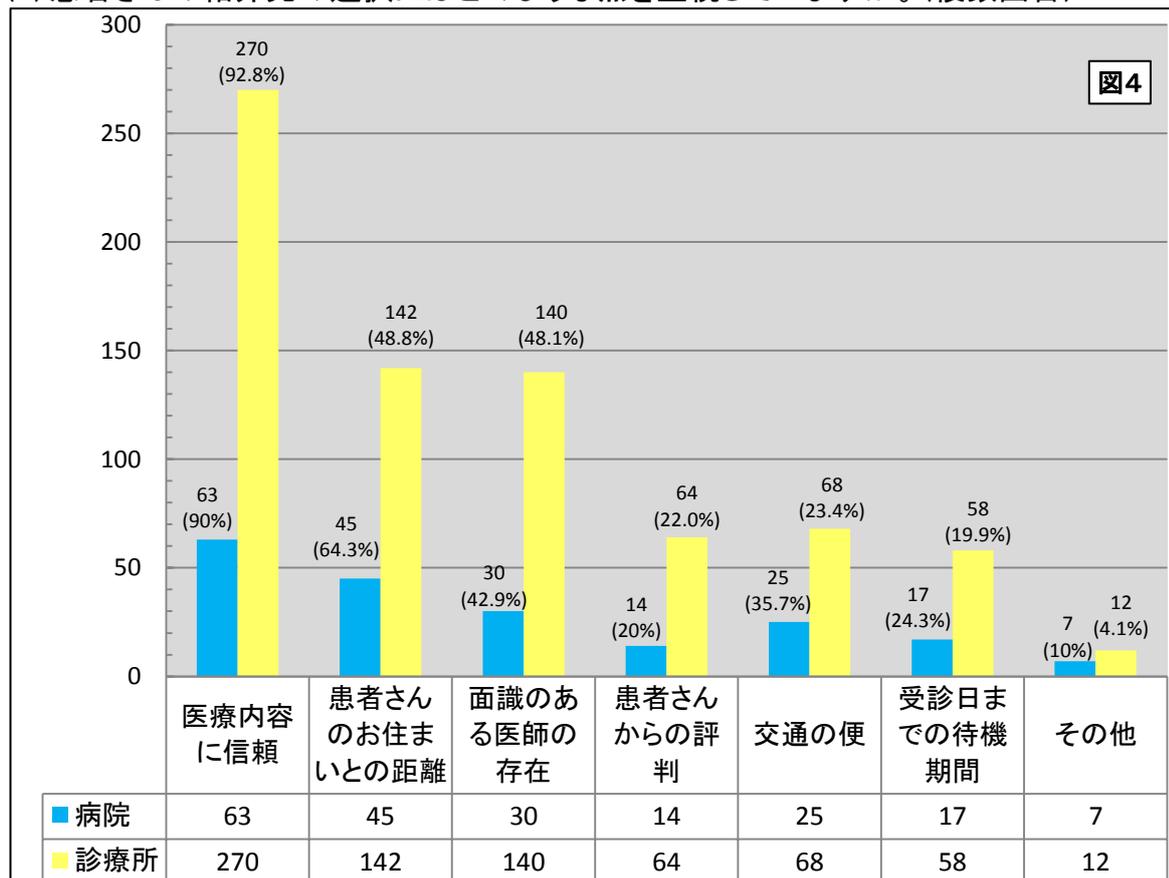


2. 診療科について伺います。

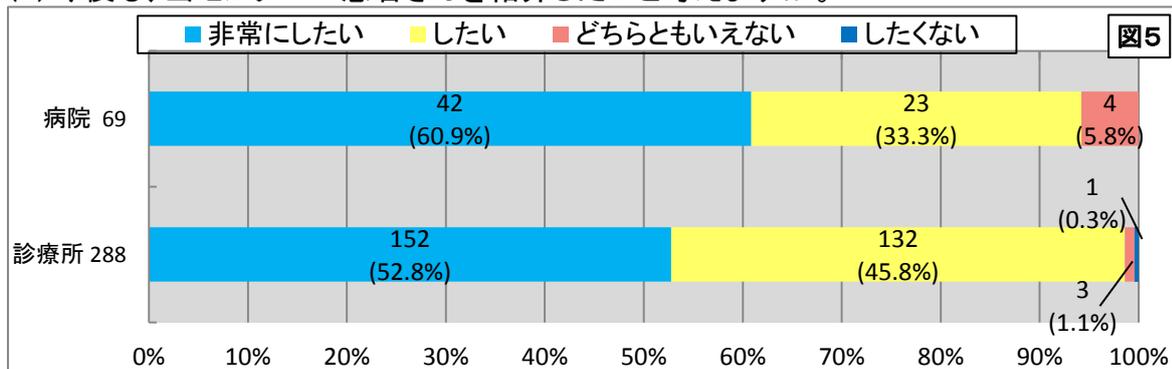


3. 紹介、中間・結果報告書について伺います。

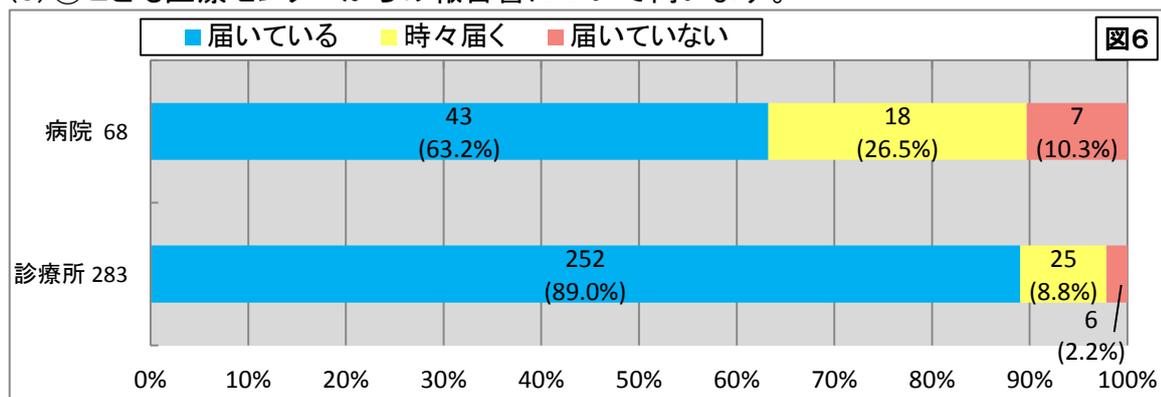
(1) 患者さんの紹介先の選択にはどのような点を重視していますか。(複数回答)



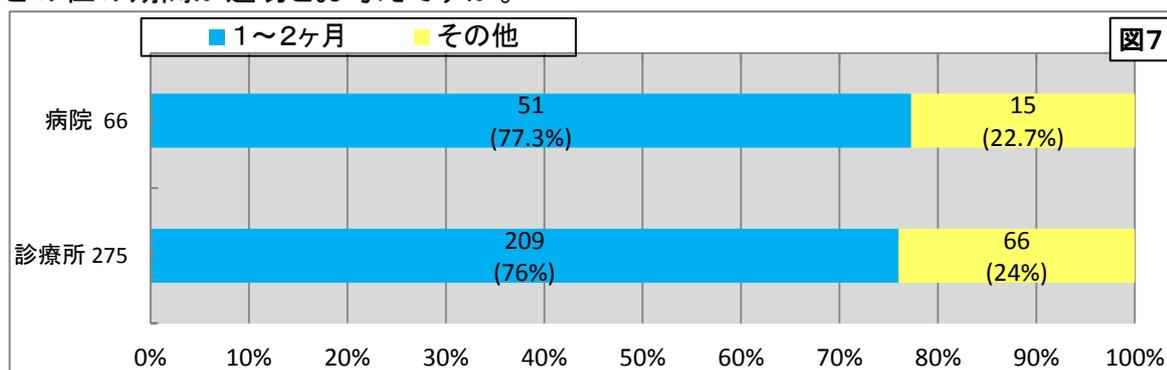
3.紹介、中間・結果報告書について伺います。
 (2) 今後も、当センターへ患者さんを紹介したいと考えますか。



3.紹介、中間・結果報告書について伺います。
 (3) ①こども医療センターからの報告書について伺います。

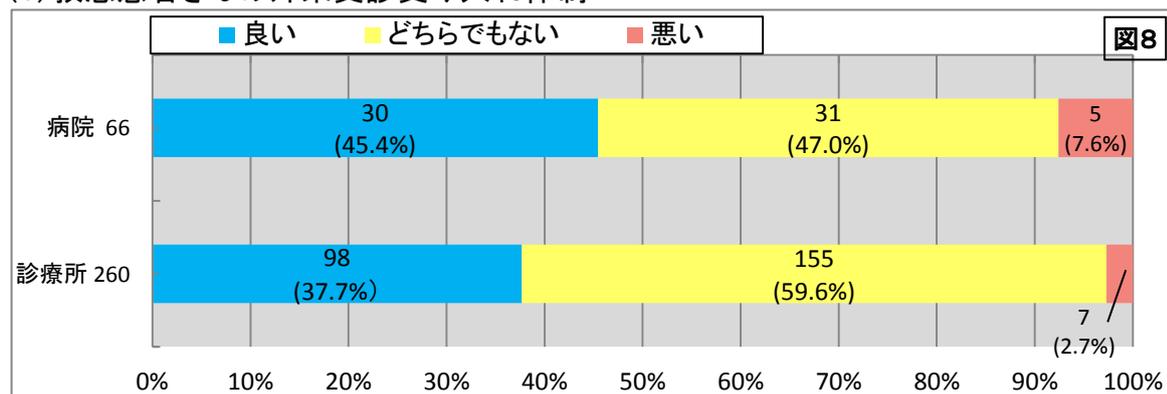


3.紹介、中間・結果報告について伺います。
 (3) ②最終診断が遅くなることもありますが、結果報告書が届くまでにはどの位の期間が適切とお考えですか。



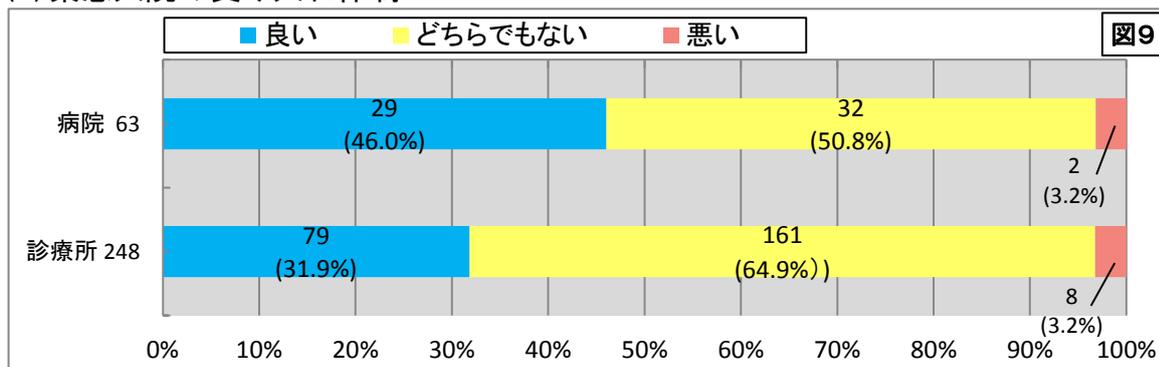
4.救急患者さんの受け入れについて伺います。

(1) 救急患者さんの外来受診受け入れ体制



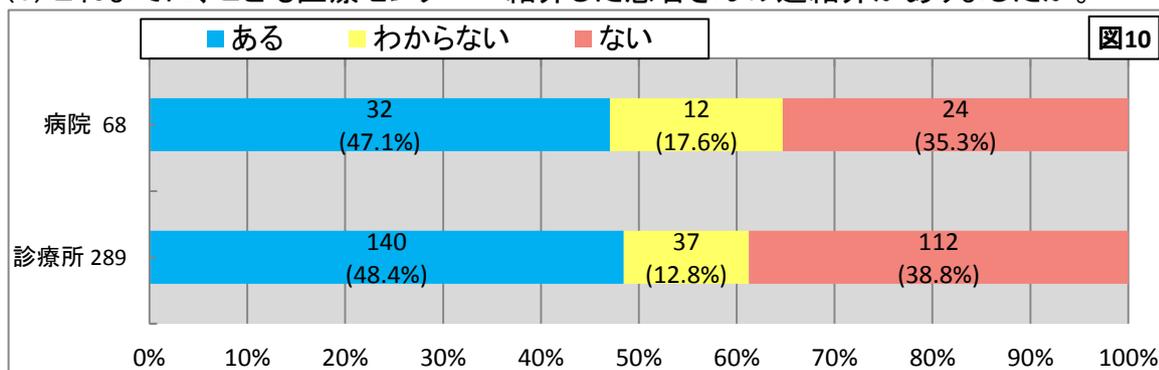
4.救急患者さんの受け入れについて伺います。

(2) 緊急入院の受け入れ体制



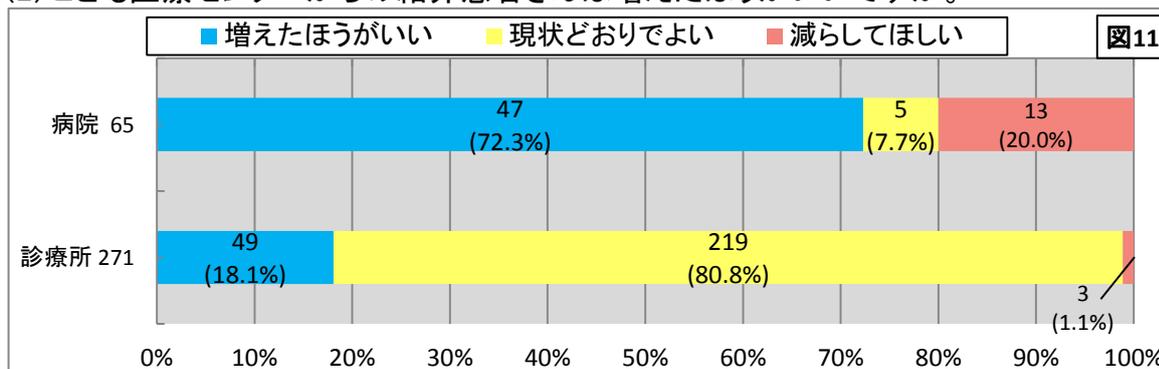
5.逆紹介について伺います。

(1) これまでに、こども医療センターへ紹介した患者さんの逆紹介がありましたか。



5.逆紹介について伺います。

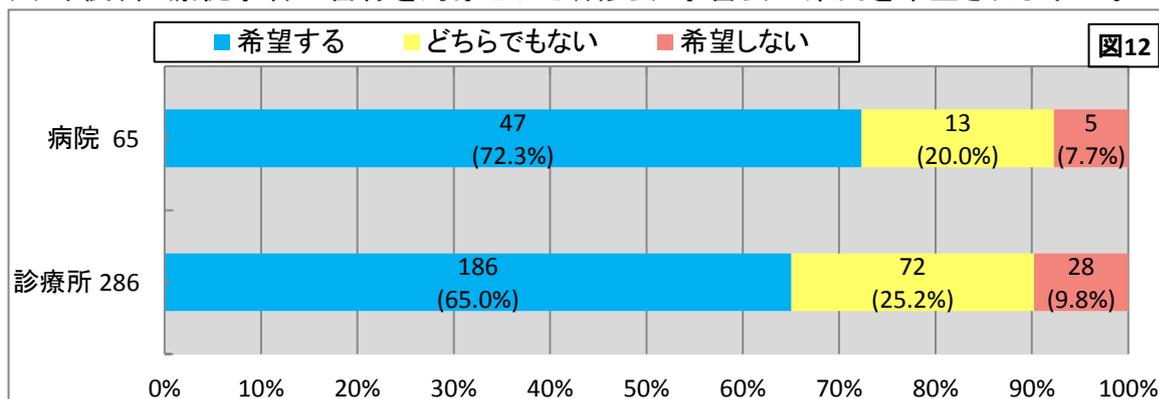
(2) こども医療センターからの紹介患者さんは増えたほうがいいですか。



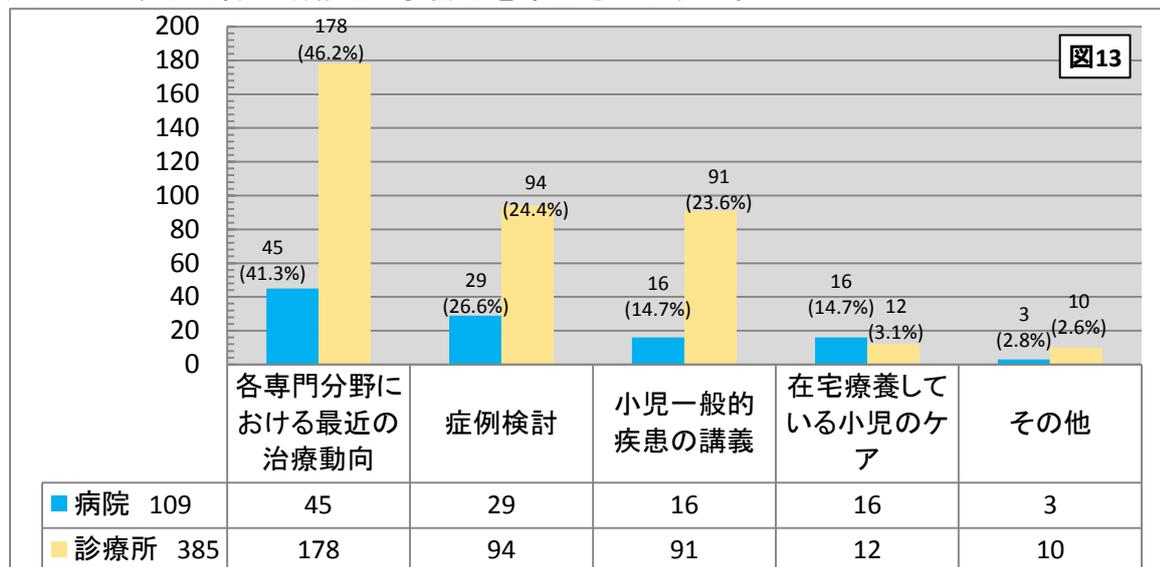
6.研修会・学習会の開催について伺います。

地域医療連携室では、医療従事者の皆様を対象とした研修・学習会のご案内を登録医療機関等に行っております。

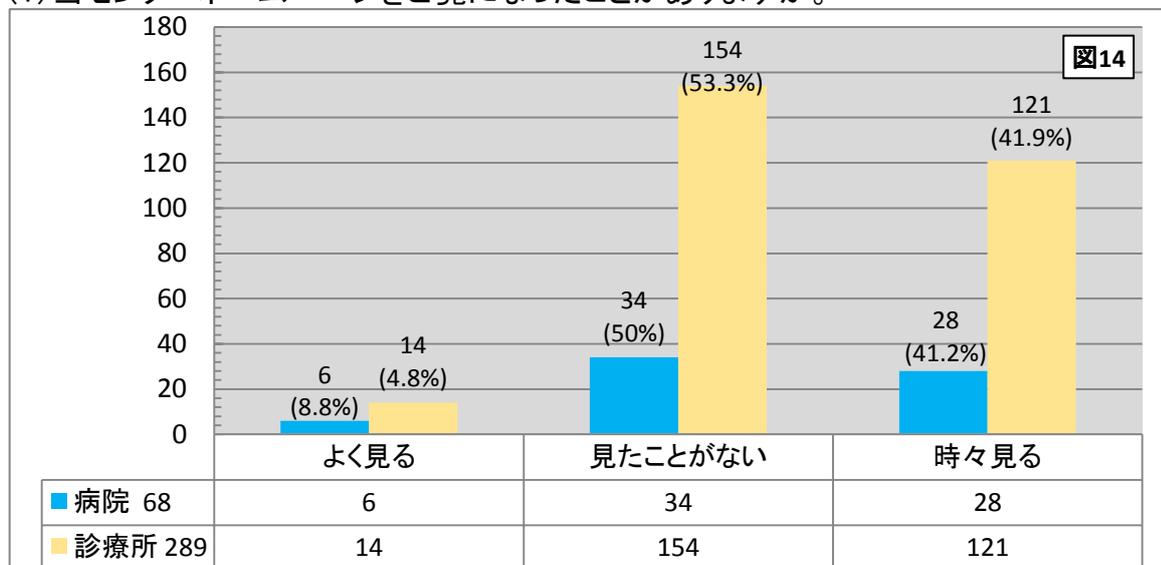
(1) 今後、医療従事者の皆様を対象とした研修会・学習会のご案内を希望されますか。



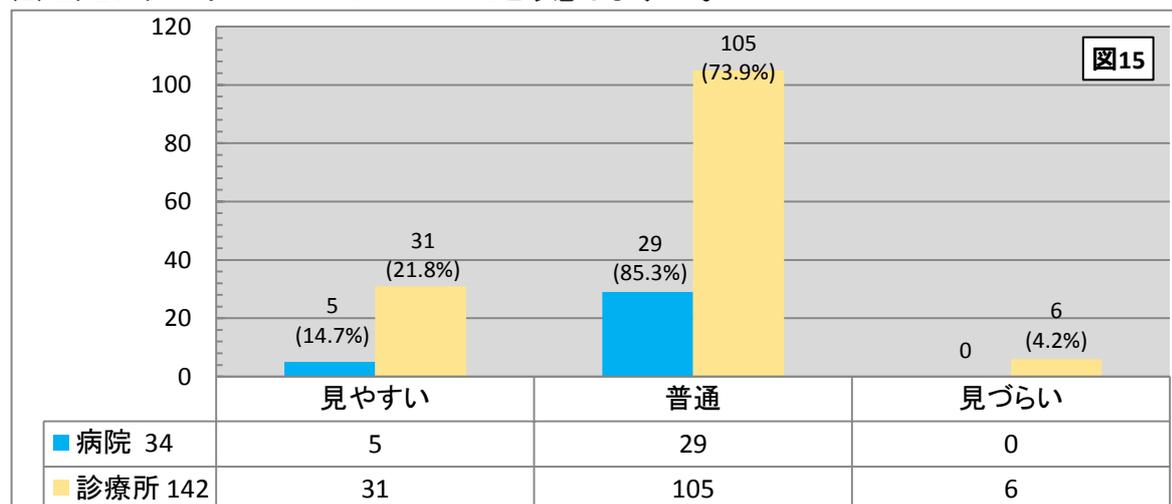
6.研修会・学習会の開催について伺います。
 (2)どのような内容の研修会・学習会を希望されますか。



7.子ども医療センターおよび地域医療連携室についてご意見伺います。
 (1)当センターホームページをご覧になったことがありますか。

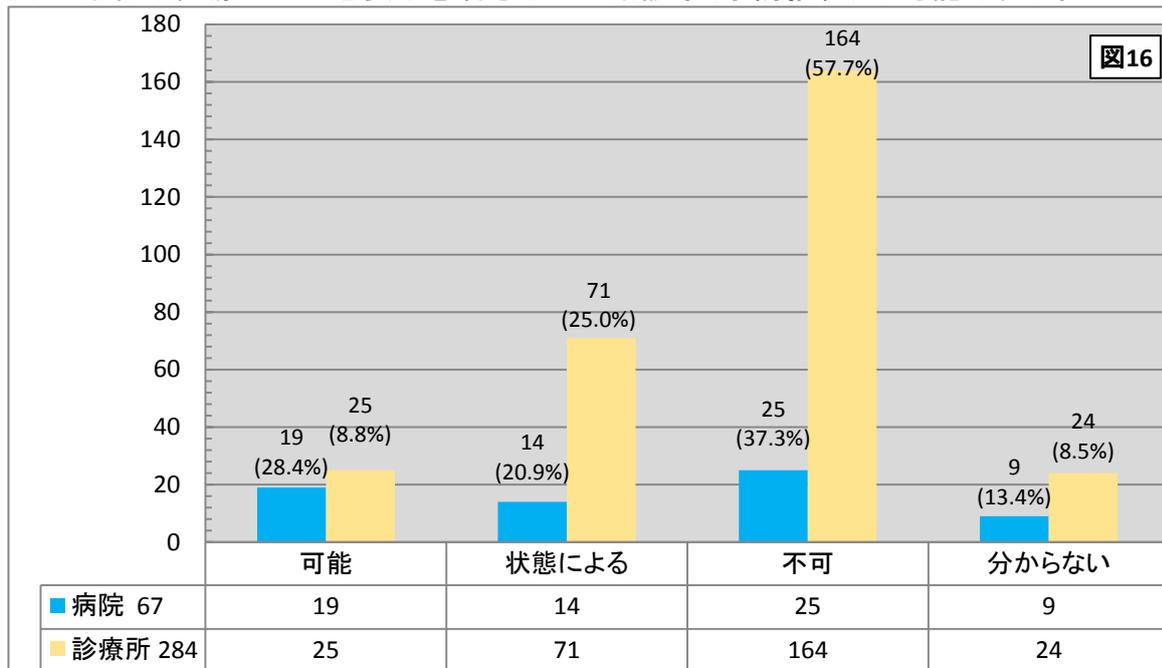


7.子ども医療センターおよび地域医療連携室についてご意見伺います。
 (2)当センターホームページについてどう感じますか。



8.当センターとの連携について伺います。

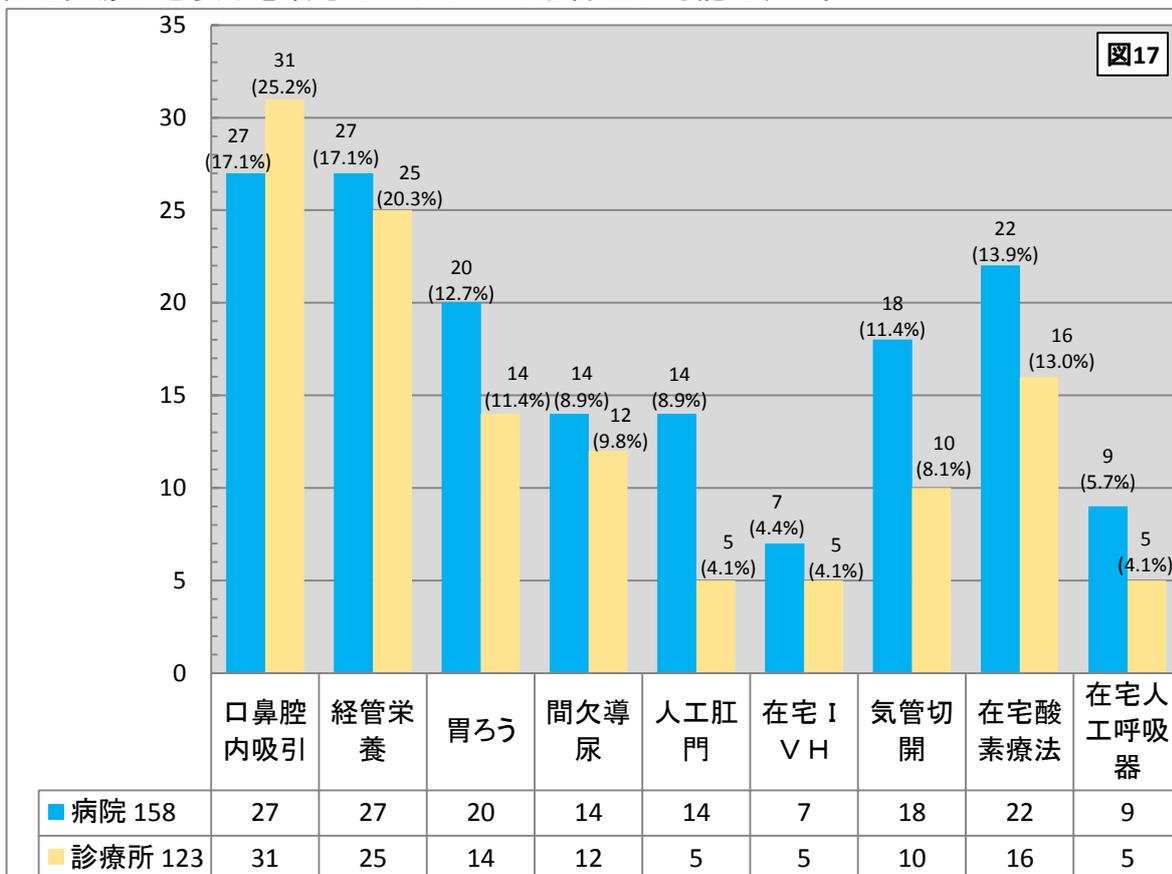
(1) 日常在宅医療ケアが必要な患者さんの日常診察(予防接種)は可能ですか。



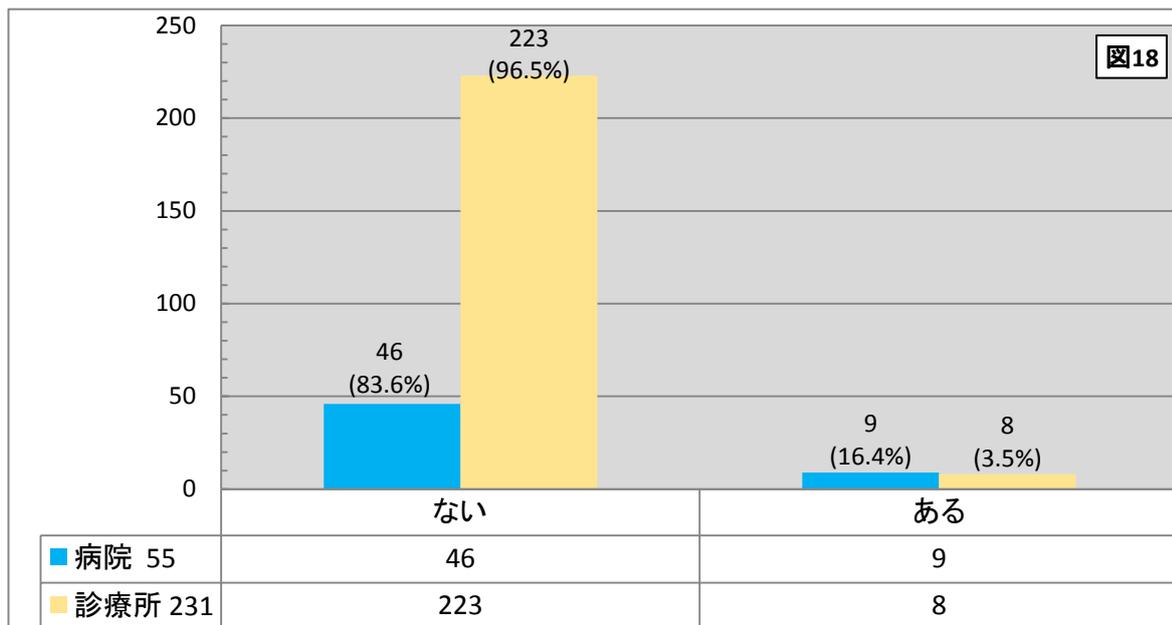
8.当センターとの連携について伺います。

(2) (1)で「可能」または「状態による」と回答された方のみお答えください。

在宅医療が必要な患者さんの以下の日常管理は可能ですか。



8.当センターとの連携について伺います。
 (3)在宅医療部門はありますか。



3(1)紹介、中間・結果報告書について伺います。患者さんの紹介先の選択には、どのような点を重視していますか。	
専門性	7
患者さんからの希望	5
外科的疾患などの小児内科領域外の合併疾患の有無	1
子どもの診療に慣れている病院として小児を紹介する場合、第一位選択としている。	1
特定の紹介状があるので紹介しやすい。断られたり、嫌味を言われぬ。親切	1
紹介しやすい	1
当院が遠方のため、患者さんの家族の希望のみ紹介しているのが現状。周囲に聖マリ・北部病院・藤が丘病院がある。	1
検査機器の充実	1
貴院しかないため	1
診察内容・治療・検査の方針がわかる報告書をいただけるかどうか(単に来院したという報告ではなく)	1
いつも血管腫(特にいちご状血管腫)に関しお願いしています。	1

3(2)紹介、中間・結果報告書について伺います。最終診断が遅くなることもありますが、結果報告書が届くまでにはどのくらいの期間が適切とお考えですか。	
症例(科)によって診断がつくまでに時間がかかるので、診断がつきしだい。	25
最終診断は遅くてもいいので、途中経過だけでも早めに送ってほしい。	9
できるだけ早く	5
1~2週間	3
1ヶ月以内	3
2~3ヶ月以内	2
随時	2
中間報告だけではなく、最終診断も希望	2
半年以内	1
疾患・経過によるが2か月以上の場合には中間報告があると良い。	1
届かなくても良い。	1
患者の退院後	1
現状で問題なし	1
届かないこともある。	1
2004年から2010年まで3件の紹介があり、1件のみ中間報告がありました。	1
詳細な内容と治療を今後の方針などを希望する。	1
初診時は、数日~1週間以内に、「受診しました」という事務連絡だけの施設もあるができれば暫定診断でも良いので医師のコメントが欲しい。	1

4(1)救急患者さんの受け入れについて伺います。救急患者さんの外来受け入れ体制	
〈悪いと思われる理由〉	
「一般病院でも大丈夫ではないですか」と言われたことがあるので、救急患者さん紹介の敷居が高いです。「よほどの重症ではないと、貴院には送っては行けない」との意識があります。	1
一部であると思いますが、高圧的であったり、あきらかに不機嫌であったりする先生がおられます。	1
ほとんど受け入れてくれない。	1
KCMCフォローされている患者をみないことがある。	1
予約の時間がかかる。	1
科によるが、度々診察所から直接予約が必要かつそのたび時間がかかる。	1
受け入れが悪いと聞いているのであてたのんだことはない。	1
葉書での予約が基本のため	1
なかなか受診の連絡が来ない(1週間以上経過)母はTELLして事情を聞いているのですが、そちらの事務からでもよいから早く連絡ください。	1
紹介しても3か月程の時間がかかる至急の方については、電話をいれないとみてもらえない。紹介状の内容をみて判断していただきたいです。	1
〈その他の意見〉	
緊急をお願いしたことがないので分からない。	38
救急を受け入れている事は知りませんでした。	5
遠方のため救急は紹介したことがない。	4
親御さんへの返信および診察日が遅いことが時々ある。	1
貴院受診歴のある患者さんでないと、受診できないイメージがあります。	1
一度断れたので、その後お願いしにくい。	1
救急症状により、紹介先を変更している。	1
時間外にKCMCの転送が必要と思われた時に紹介状を送る手段がなく困った。事後に送ることも認めて欲しい。	1
①小児科入院を当方が全身状態の判断を経験により診断しているが、検査結果を尋ねられる。	1
②満床を理由にして拒否される。	1
救急患者の受け入れ体制がわからない。いつの時間帯が良いのか(特に夜間)不明。	1
KCMC眼科通院中患者が結膜炎症状が強く時間外に依頼したところ、眼科医師が当直であったが、三次救急のため患者は受け入れられないと断られた。	1
救急患者は新生児搬送以外は市の基幹病院に送るケースがほとんどです。	1
20年前の整形外科でのことですが、骨折で整形外科のDRの紹介で、私が同伴したが、対応は温かくなかった印象が強い。日曜日のためでしたか。	1
先生にもよりますし、その先生がいらっしゃるかわかりませんので、全てにおいて言えることではありませんが、当院外来患者さんの貴院外来検査受診をお願いしたところ、電話の話だけで「大丈夫ではないですか?」と言ってなかなか外来受診OKを出していただけませんでした。結局診ていただき、入院にもなりましたが、原因は不明で最終的に赤ちゃんは自宅で突然死となりました。受診してからの先生はどの先生もよくしていただき感謝しております。	1

(単位:件)

ベッド調整。	1
県立こども医療センターでフォローしている重症患者が当院受診する機会があまりないためわかりません。	1
3次救急として考えればよいが、地域の住民は2次を期待してしまう。	1
救急外来受診のみでの紹介はほとんどしていない。救急受診が必要な子は入院が必要な場合がほとんど。	1
当院の疾患レベルからお願いできる患者は少ない。	1
救急・緊急入院を受け入れてもらえる可能性は低いという先入観で他院を紹介することがほとんど。	1

4(2)救急患者さんの受け入れについて伺います。緊急入院の受け入れ体制

〈悪いと思われる理由〉	
眼科で未熟児網膜症の患時を依頼し、眼科医師が依頼を引き受けたのに、小児科医が眼科のみの疾患ではうけいれることは出来ないと断られた。すでに家族と話がっていたので対応に苦労した。	1
新生児や外科的疾患はお願いしやすいですが、肺炎や胃腸炎・喘息などでは(申し訳なくて)入院依頼できません。受け入れ困難な場合は、対応可能な病院を教えてください。こちらからその病院に相談します。	1
入院ベッドに限りがありやむを得ない。	1
ほとんど受け入れてくれないので、対応して欲しい。	1
地域基幹病院との連携で対応してほしいと思います。	1
できるだけ入院が必要な場合はうけていただきたいと思います。	1
〈その他意見〉	
お願いしたことがないので不明。	27
適切な医療機関の提案または、紹介をしていただけるとありがたい。	21
最重症な患者さんは小児病院間(たとえば、成育・神奈川こども・都立小児)で連携し、患者さんの対応にあたっていただきたい。	1
転院が可能となるまでの治療方針についてのアドバイス。	1
2次・3次病院同市で空床の有無を把握できていると、2次に満床の病院へ依頼しなくて済むので助かる。	1
最重症例が周辺の大学附属病院に受け入れてもらえなかった。患者さんを紹介する機会がほとんどのなので、他の受け入れ先病院のアドバイスがほしい。	1
横浜市など他院とのコンタクトをとって欲しい。	1
新生児科は病院まで来て頂けるので非常に助かります。	1
救急患者は新生児搬送以外は市の基幹病院に送るケースがほとんどです。	1
遠方のため救急は紹介したことがない。	1
紹介したことがない(救急は受け入れ体制がないと思っていました)。	1
三次医療のケースはなく、まず中核病院に紹介している。今までは脱肛の1例のみ直接紹介緊急搬送入院となりました。	1
病院の性質上しかたない。	1
特別重症でない場合は、横浜市基幹病院へ。	1
緊急度により適切な対応をお願いしたい。	1
周産期システムの利用。	1
病院間の連携が不十分なのは？	1
依頼できるのか？	1
関連病院をつくってにおいて、そのようなときは紹介医療機関に事情を説明して欲しい。	1
KCMCは入院を受け入れる余裕がないと思うので、最初は別の病院を考えています。	1
周産期を依頼するケースが多いが、KCMC不可→横浜市民→国立横浜医療センターへ直接電話しています。	1
基本的には私たちは大学病院ですので貴院にお願いする場合	
①非常に重症で体外循環や特殊ガス吸入等の高度医療を必要とする時	1
②重症例で当院の受け入れ要請があったものや地理的に貴センターが近くそちらが望ましいと判断した場合	
いずれかなので受け入れが困難である場合の対応といわれても困ります。	
小児では急性の病気が多いので、緊急入院の割合が高いので当日入院ができないと、他の病院を探すことになるので出来るだけ急患を当日入院させてもらいたい。	1
空きベッドがない状況は仕方ないとは思いますが、危険な場合はしっかりと診て欲しい。	1
相談をしたくても「高圧的」、「そっちで見れないの?」といった態度の先生がおられる。(一部です。)	1
現場で緊急性のある場合の家族に対応している現場をあまり考えていただけていないと思う事があった。	1
専門医師・看護師を含めた医療チームの派遣。	1
新生児、循環器などいつも大変お世話になっています。	1

6(2)研修会・学習会の開催について伺います。どのような内容の研修会・学習会を希望されますか。(その他の意見)

遠方のため参加できない。	3
希望はあるが時間がない。	1
食物アレルギーの対応について。	1
胎児診断について。	1
予防接種・トピックスなど。	1
産科症例・開業医から紹介された症例の報告・検討会を是非開催して欲しい。	1
胎児スクリーニング。	1
8月第1土日の研修会。	1
胎児診断に関する講義。	1
出席を希望するのですが、現実には土曜日午後とかで横浜駅近くでの会にも出席できていないくらい。	1
メールでかまいません。	1
こども医療の主な疾患の兼業。	1
循環器科のカンファレンスでお世話になっています。	1
稀な疾患よりも、一般的な疾患であるが特異的な経過をたどった症例などの方が面白い。時間経過とともに時代おくれになっている治療法を今でも日々行っているのではないかと不安になる。横のつながりの希薄な横浜に出てきてからその思いは強くなってきています。	1
どのタイミングでKCMCに紹介すべきか。	1

7 子ども医療センターおよび地域医療連携室についてご意見を伺います。(その他ご要望)	
なるべく早く予約がとれるといいのですが。	1
紹介する段階でいつ頃受診できるのか不明なのでやや不便です。	1
紹介した患者の経過を尋ねたいときの窓口が不明。	1
泌尿器の手術のお世話になり、ありがとうございます。これからもよろしく願います。	1
診療科によって部長やスタッフの名前が書いてあったり記載がなかったりまちまちなので全科でのせてほしい。	1
診療科の医師のプロフィールを詳しく。	1
いつもお世話になり、ありがとうございます。	1
以前には文字列が多く見づらかったです。	1
産婦人科・小児科でお世話になっています。多忙だと思うので特にありません。	1
平日の学習会の開始時間が早いため、自院の診療終了後に参加できない。20時からなら参加可。	1
逆紹介について→患者さんとお薬手帳からどんな診断を受け、治療を行っているか探っている状態です。きちんとした逆紹介状での今後のプランについても知っておきたい。②とにかく予約がとりづらい→他病院と比べると圧倒的に予約が取れない。	1
産科スタッフに要望です。正常妊娠経過の患者さんの妊婦健診はできるだけ、開業医にて診させていただきたい。30週～32週の検診までは、臍帯バンクの件があるかと思いますが、なんとかセミオープンに近づけてください。	1
地図がわかりやすいようにしてほしい。	1
外来の予約を取りやすくしてほしい。	1
見た事がなく判断できない。	1
地域のクリニックなどと連携するための情報ネットワークなどの構築と活用をお願いしたい。医師のみならず他職種が活用できる形が望ましいと考えます。	1
いつでも紹介できる。紹介用紙を自由化し、必要な項目だけは必ず書くように指導して。	1
各科ごとのHPを増やしてほしい。	1
いかにもお役所というHPで患者目線のHPではない。	1
初めてHPをみての感想。病院の案内、診療科等をひとつにまとめ、「患者・ご家族の方へ」「医療機関の方へ」は別枠で。特に診療科、局、施設をひとつにまとめたものは分かりにくい。眼科のところはH17.7更新とあるのは初めてUPしてその後は更新されていないのでしょうか。	1
一部見づらい。(当方の画面が小さいせいもありますが)「外来のご案内」、「外来診療の流れ」など、3つ囲いの図説明があります。一見分かりやすく思いますが字が読めません。拡大すると読めるのですが、白抜き文字はぼやけた感じがするの、当院の他の職員にも分かりにくいとのこと。	1
いつも迅速な対応ありがとうございます。	1
相談にのっていただき助かっています。	1
お世話になってばかりで、特に要望はありません。	1
患者さんへ渡すパンフレットを送っていただきたい。	1
なし。	1
当センターでは貴センターのキャリアオーバーを多く引き受けていますが、転院後に胃ろう・胃食道逆流症の手術を必要とする場合は、年齢を問わずそちらで受けてください。	1
大学病院や他の近隣病院よりも敷居が高い印象がある。公的病院だからでしょうか。親方日の丸体質があるのでしょうか。事前にはがきを送るシステムがありとても不便でした。	1
8 当センターとの連携について伺います。日常在宅ケアについての意見	
時間内であればすべて対応可。	1
予防接種なら可能。	2
予約、近隣往診で予防接種程度であれば協力可能。	1
少人数なら、自宅訪問で良ければ接種可能。	1
往診はしています。	1
基本的に地域の診療所を連携して行います。	1
皮膚科潰瘍など。	1
b~I 状態や条件による。	1
現在在宅1名(筋ジス)のみです。以下のほとんどを訪問看護ステーション、女子医大等と連携していますが、私は予防接種、感冒投薬、胃ろうの不具合等をみるのみです。	1
気切、HOT、胃ろうや人工肛門に関しては耳鼻咽喉科、小児外科、呼吸器外科へ問い合わせください。	1
外来が週2日のみのため難しい。	1
小児科の常勤医1名であり入院不可のため。	1
当院では専門診療パートがないため対応できません。	1
無理。	1
質問の意図が不明。往診をするか否かという意味ですか。	1

分析及び考察

1)回収率は全体で46.5%、内訳は病院46.9%、診療所46.3% (図1)

- (1)神奈川県内の医療機関のうち、平成23年度に当センターへの照会実績が2件以上あった医療機関。病院については紹介実績が多かった診療科を対象としたため平成19年度に比較して全体の回収率は上昇した(病院12.4%減、診療所10.3%増)。
- (2)病院からのアンケート回収率の低下は、対象病院が平成19年度59箇所から平成24年度149箇所に増加し、分母が増加したためと考えられる。
- (3)回答のあった診療科としては、小児科について、内科、皮膚科、眼科の順であった。

2)当センターへの紹介について

(1)紹介先の選択にはどのような点を重視していますか。(図4)

「医療内容に信頼」を重視する医療機関は病院90%、診療所92.8%で最も多く、次いで「患者さんのお住まいとの距離」で病院64.3%、診療所48.8%、「面識のある医師の存在」が病院42.9%、診療所48.1%であった。平成19年度に比較し、「医療内容に信頼」と「受診までの待機時間」が増加しており、専門医療を速やかに提供できる医療機関を求めていると考えられる。

(2)今後も当センターへ患者さんを紹介したいと考えますか。(図5)

「非常にしたい」医療機関は病院60.9%、診療所52.8%、「したい」医療機関は病院33.3%、診療所45.8%、「どちらともいえない」医療機関は病院5.8%、診療所0.3%、「したくない」医療機関は病院0%、診療所1.1%となった。

(3)こども医療センターからの報告書について伺います。(図6)

受診報告書は、「届いている」が病院63.2%、診療所89%、全体で81.5%であり、平成19年度60.7%に比較して、20.8%上昇した。また「届いていない」「時々届く」は平成19年度31.5%に比較し、15.2%と減少した。

これは平成20年度導入した地域連携システムの効果が大きいと考えられる。

「届いていない」「時々届く」がみられる要因は以下が考えられる。

- ①すぐに診断名がつかないような難しい症例や
- ②症状(病態)によって診療科が転科した場合、どの診療科が報告するのか明確でない

(4)結果報告書が届くまでにはどの位の期間が適切と考えますか。(図7)

1~2ヶ月という回答(病院77.3%、診療所76%)が多く、平成19年度と大きな差はなかった。その他が病院22.7%、診療所24%で内訳は「診断がつきしだい」「途中経過だけでもほしい」で半数以上を占めていた。

4)救急患者の受け入れについて

(1)救急外来の受け入れ体制(図8)

「良い」が病院45.4%、診療所37.7%であり、平成19年度に比較して若干低下した。自由意見では、「重症者のみと考え敷居が高い」という意見のほか、「救急体制を知らなかった」という意見もあり、センターの救急体制の周知の強化が必要と考えられた。

(2)緊急入院の受け入れ体制(図9)

「良い」が病院46%、診療所31.9%と平成19年度と比較して若干低下した。自由意見では、「病床に限りがあると思うので地域機関病院と連携をとり対応して欲しい」や「肺炎や胃腸炎などでは入院依頼しにくい。他の受け入れ先病院のアドバイスが欲しい」などの意見があった。当センターの地域医療連携のあり方の参考にしていく。

5) 逆紹介について

(1) 逆紹介がありましたか。(図10)

逆紹介が「ある」は病院47.1%、診療所48.4%であり、平成19年度と比較して病院が28.7%減、診療所が23.2%増であった。

診療所への逆紹介が増加した要因には、成人の医療システムと同様に主治医を病院ではなく診療所に移行する傾向になってきていることが考えられる。

また、医療依存度の高い患者の増加により、完全な逆紹介は難しく日常管理を診療所で行い、専門医療を当センターで行う患者の増加が診療所への逆紹介の増加につながっている。逆紹介が「ない」が54.2%である理由は以下が考えられる。

- ①複数の診療科を受診している。
- ②慢性疾患や稀な疾患である。
- ③家族が当センターでのフォローを強く希望する。

(2) 紹介が増えたほうがいいですか。(図11)

紹介が「増えたほうがいい」は病院72.3%、診療所18.1%と「現状どおりでよい」病院7.7%、診療所80.8%を合わせると病院と診療所ともに80%以上であった。

6) 研修会・学習会

(1) 研修会・学習会への参加(図12)

研修会等の案内を「希望する」は病院72.3%、診療所65%で、診療所は平成19年度と比較して増加していた。これは診療所への逆紹介増加からも医療依存度の高い患者の日常管理を診療所で担う機会が増加していることも関係していると考えられた。

(2) 研修会・学習会の内容(図13)

病院は「各専門分野における最近の治療動向」が41.3%と最も多く、次いで「症例検討」26.6%、「小児一般的疾患の講義」「在宅療養している小児ケア」がともに14.7%であった。診療所も「各専門分野における最近の治療動向」が46.2%と最も多かった。小児専門病院としての当センターの研修会や学習会への期待の高さがうかがえた。

7) ホームページについて

(1) 当ホームページをご覧になったことがありますか。(図14)

病院については「よく見る」8.8%と「時々みる」41.2%を合わせると50%を超えているが、診療所では「見たことがない」53.3%であった。

(2) 当ホームページについてどう感じますか。(図15)

病院、診療所ともに「普通」70%以上となった。

8) 当センターとの連携について伺います。(図16)

(1) 日常在宅医療ケアが必要な患者さんの日常診察(予防接種)は可能ですか。

病院は「可能」「状態による」を合わせると58.2%、診療所は「不可」57.7%となった。

(2) (1)で「可能」または「状態による」と回答された方の内在宅医療が必要な日常管理は可能ですか。(図17)

病院、診療所ともに「口鼻腔内吸引」「経管栄養」が最も多く。

最も少なかった項目は、病院「在宅IVH」、診療所「人工肛門」「在宅IVH」「在宅人工呼吸器」となった。

(3) 在宅医療部門はありますか。(図18)

「ない」が病院、診療所ともに80%以上であった。

9) 今後の方策及び課題

(1) 調査対象について

今後調査を行う場合は以下のことについて検討したい

- ①当センターに紹介したことがある医療機関を対象に、連携している医療機関のニーズをより反映した調査をめざす。
- ②連携している医療機関のニーズ調査としては、地域ごとの交流会を開催するなどアンケートに限らない取組みを検討する。

(2) 紹介患者について

受診日のお知らせは、診療情報提供書受領後1週間以内を目標に保護者宛に受診連絡票を郵送している。また、予約日の変更も多いため、ご紹介いただいた医療機関の皆様には受診日はお知らせしていない。受診されたかどうかについては「受診報告書」を受診日当日に郵送させて頂くようにしている。紹介予約制については、待ち時間の短縮と円滑な診療をすすめるためにも現行どおりで考えている。なお、救急患者は予め電話でご連絡いただければいつでも対応致します。

(3) 紹介患者に対する報告等について

- ①初診時の受診報告については、今後地域医療連携ソフトの活用により、「受診されたことの報告」として地域医療連携室で処理して100%をめざしたい。
- ②経過、結果報告について
診療科が転科したときや診断確定が遅れるときも1~2ヶ月以内に経過報告を出すなど、地域医療連携ソフトの活用によるチェック機構を強化していきたい。

(4) 救急患者の受入れについて

外来受診及び救急入院の受け入れについて、「どちらでもない」が多いのは、当センターで「いつでも気兼ねなく快く受け入れてほしい」という地域の医療機関の強い願望の表れではないと思われる。今後も二次、三次救急については円滑な受け入れに最善を尽くしたい。

(5) 逆紹介について

紹介元に逆紹介することが困難な患者もいるが、当センターは地域医療支援病院であり、また当センターだけで医療を担うには限界がある。今後、地域の医療機関との連携は欠かせないので以下のことを検討したい。

- ①原疾患の管理に限らず、感冒等の一般診療や予防接種はできるだけ地域の医療機関に逆紹介して、連携をとっていくように各医師に働きかけていく。
- ②地域の病院、診療所と連携強化していくために、今後も医療機関を訪問するなど続けながらFace to faceの関係づくりをしていく。
- ③紹介先の検索を容易にするなど、医療機関のデータベースの構築とすぐに活用できる方策を検討する。また地域医療機関からの他の医療機関情報の相談窓口としての役割も強化する。

(6) 研修会・学習会について

- (1) 研修会の案内について希望の有無を聞いた問いでは、診療所の希望が病院に比べ低かったが、今後は各部署の研修予定を早めに把握し計画的に案内していきたい。
- (2) 時間帯は診療に支障のない時間帯を多くの医師が希望されており、今後も平日であれば19時以降の時間帯で企画することが望ましいようだ。

(7) 地域医療連携室について

- (1) 「地域医療連携室だより」のバックナンバーをホームページに掲載するようにしたい。
- (2) ホームページについては、アクセスしていただけるような内容の検討と診療スケジュール（医師名を明記）や専門外来の紹介を掲載する。
- (3) 「専門外来の詳細を知りたい」という自由記述があった。診療科の医療（治療）内容を医師のプロフィールなどホームページ上で紹介することも今後の検討課題としていきたい。

平成25年4月 地域医療連携室